

平成26年度全国高体連自転車競技委員長会議

期 日 平成26年8月4日

会 場 笛吹市スコレーセンター

- 1 専門部部長挨拶 大館 健司部長
 - 2 議長選出 規約により専門部部長が議長を務める
 - 3 議事録署名人指名 塚崎邦嗣 氏（大分県） 圓谷 崇氏（新潟県）
 - 4 定足数の確認
3分の2以上の出席41名により、本会議の成立を報告する。
 - 5 全国高体連より川邊 哲氏（前部長）へ感謝状の授与。
 - 6 協議事項（1）平成26年度全国選抜大会要項について
 - ① 大会要項、日程について（総務部会長、開催地実行委員会担当理事）
 - ・熊本県で開催決定。トラックは熊本競輪場、ロードは山鹿市特設コース。
 - ・参加申込みは、総務部会、もしくは熊本実行委員会になる。
 - ・開会式は日照時間、選手監督の移動面を配慮し、IP、PR 予選が終わった後に行う。
 - ② 競技運営について
 - ・ケイリンの出場制限について（競技運営部会）
特別規則を2つ設定して実施していたが、できるだけ、参加人数を56名以下にし、各組7名以下で実施したい。
- 承認
- (2) 平成27年度全国高等学校総合体育大会自転車競技会実施要項について
別紙参照
 - ① 大会要項について（総務部会長）
 - ・競技日程、種目別参加選手制限表は未定。
 - ② インターハイ制限タイムの再検討について（競技運営部会長）
 - ・レベルアップは図られたが、出場チーム、選手が減らず、運営時間が厳しい状況がつづいている。
 - ・タイム計測種目については県大会のリザルトを添付する、またブロック開催前に公開あるいは提出を義務化する方向で検討していく。
 - ・なお、今後、競技運営の厳格化、つまり、周長補正、電子計時の使用も必然性が高まることを共通理解し、大会を運営していただきたい。
- 意見・・・東北ブロックは開催時に天候、気温の影響で記録がでにくい。
あと1週あとに実施できればありがたい。

回答・・・番組編成などの関係で6月最終週は大変難しく、現状の開催時期で協力いただきたい。

→ 承認

(3) 27年度以降専門部事務局について（総務部会長）別紙参照

- ・固定化か、輪番制か12月理事会で最終決定。
- ・輪番制の場合、IH開催するブロックが担当する。27、28年度は中・四国ブロックとなる。事務局担当は理事がこれにあたることとする。

→承認

(4) 第6回全日本ステージレース中止と今後の実施検討（理事長）

- ・今年度は実施要項発表後、JKAより収入内容に問題があるとの指摘をうけ、結果として財源不足のため、急遽中止せざるを得なくなった。
- ・ツール・ド・東北の流れを受け継ぐ歴史ある大会だったので、中止になるのは惜しい。今後もステージレースが継続されるのが望ましい。
- ・急な中止の報告だったので、来年度の継続開催も大変難しいが、当面継続できる方策を模索する。一方で、他地域での開催も、公募も含め検討していく。

(5) 2015年日韓対抗学生自転車競技大会について（理事長）

- ・今年度で20年（回）となるが、これを一つの区切りにして、今後のあり方を検討していく。
- ・現状として、高体連が中心になって準備している。また、学連の取り組みの意識の温度差を感じる。韓国側も日本との交流に対して、この事業を始めた当初より、その必要性、重要性が低下している。
- ・今後、高体連独自にアジア地域の交流事業を進めていく。

→ 承認

(6) 25年度収支決算報告および監査報告について・・・別紙参照

→ 承認

(7) 強化育成部会長の任期途中の交代について（理事長）

- ・現折本部会長が、JCFよりJCFジュニア強化委員会、トラック部会員、ジュニア部会長の推薦を受けたため、残った期間、部会長を大野直志氏に交代することになった。大野氏は競技運営部会との兼務は以後しないこととする。
- ・兼任していただくことも考えたが、高体連とJCF業務の目的、内容を踏まえると、その両立性が限界であり、業務の分離、差別化を図りた

い。

- ・インターハイ終了後に部会長を交代する。

→ 承認

(8) 派遣大会の選手選考について (強化育成部会)

- ① チョンジュMBC国際ロードレースの開催時期変更と選手選考について開催期が変更になったが、当初決めていたとおり、愛媛県チームを派遣する。

- ② 日韓対抗の選考について

意見 JOC カップは締め切りが終わり、選考の対象大会にしてほしくない。

意見 JOC も対象としてよいし、選抜大会の結果も反映してほしい。
多数決をとり、4大会を対象にする。

(9) 競技運営部会より・・・別紙参照

- ・旧アンカーフレーム (PCPT=TTタイプ) の使用について、2001年使用の緩和措置が10年間程度を目途に実施されてきた。公認大会では今年度中3月31日までは使用を認めるが、4月1日以降、使用を禁止としたい。
- ・公認大会の予選となる大会でも使用しない。

7 報告事項

(1) JCFおよび全国高体連の報告 (理事長)

- ・JCF強化委員会のメンバー交代があった。
- ・大会でのゼッケンにスポンサー名が入る。ゼッケンスポンサーとして収入になる。
- ・体罰問題が発生したときの指導者に対する処分について
- ・インターハイの大会期間を4日間以内にし、また経費節減に努力する

(2) ブロック合宿予算配分の報告 (総務部会長)

- ・写真、記録、配分した人数で決算報告する。
- ・全国合宿に女子選手の参加も要望があれば、検討したい。

質問 ・JKA補助金残額の振り込みがされない状況では、実施できない状況も生じるのではないか。

回答 ・大変ご迷惑をかけている状況であるが、23、24年度の会計処理はおおかた済み、残金も支払われる予定。

- ・25年度は未だ精査が進んでいない。

- ・現在、JCF から補助もらっている事業は、選抜大会と全国合宿とチョンジュの3つである。

(3) 各専門部会より

①総務部会より

- ・全国大会参加条件の転校生の参加できる期間の扱いでIH前の6ヶ月前か、都道府県大会の6ヶ月前の問題で、都道府県大会の6ヶ月前とする。
- ・都道府県大会の記録を総務に報告して欲しい。
- ・大会時の事故について、各専門委員長、ブロック委員長は報告をお願いしたい。

②競技運営部会より

- ・大会時の事故防止対策として、競技実施前にルール説明を行う。

③強化育成部会

- ・別紙参照

(4) 賛助会費について（事務局）

- ・今年度も各都道府県からの賛助会費1万円をお願いしたい。

(5) バナー広告掲載について

- ・バナー広告は年間6万(5000円/月)の協賛金で広告を掲載。

(6) その他

- ・IH女子参加選手と女子競輪選手との情報交換会を開催するので参加をお願いする。
- ・女子IH選手の選考について見直しの必要性がでてきたため、来年度の選考は検討したい。